

総務省は9月17日の敬老の日に合わせ、65歳以上の日本の高齢者の推計人口（9月15現在）を発表した。

団塊の世代が2017年から70歳を迎え始めたことで、70歳以上が前年に比べ100万人増の2618万人となり、総人口に占める割合は20.7%となり始めて20%を超えた。

65歳以上と定義される高齢者人口は、前年比44万人増の3557万人だ。

総人口に占める割合は0.4ポイント増の28.1%と過去最高を更新した。

高齢者のうち、80歳以上は31万人増の1104万人（総人口の8.7%）で、90歳以上は14万人増の219万人（総人口の1.7%）と2年連続で200万人を超えた。

高齢者の男女別内訳は、男性1545万人、女性は2012万人で女性の2000万人超えは初めてとなる。

国連の調査によると、日本の高齢者の割合（28.1%）は世界で最も高く、2位のイタリア（23.3%）を5ポイント近く上回った。

一方、労働力調査によると、会社などで働く高齢者は14年連続で増加し、2017年は前年比37万人増の807万人、就業者全体に占める割合は12.4%と、いずれも過去最多となった。

政府は、意欲のある高齢者が働き続けられるよう、さらなる環境整備を急ぐ方針だ。